

日本遺産に登録!

北前船のヒミツを解く!

北前船新聞

《発行日》
2017年8月31日
練馬区立
伊豆山小学校4年2組
由家大路



▲みなとに展示の北前船

▲大新島漁民の舟より学校のプールくらいの大きだったわ!

(大きさ) 大きいもので長さ30m、幅8m、高さ25m

(特徴) 帆は少なくて風力で進むため乗組員が少なく、一年一航海。標がなくて、一年一航海。

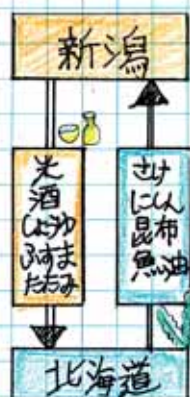
(目的) 大阪から北海道まで様々な港に寄って品物を売買した。安い所で仕入れて高く売れるところまで売って利益をあげる。

(時代) 江戸時代から明治時代

プロフィール

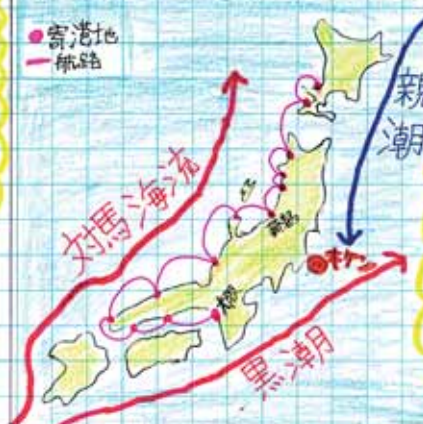
江戸時代から明治時代にかけて船運の歴史を作った北前船のストーリーが2017年4月に日本遺産に登録された。北前船の年々そのヒミツにせまる!

新島は米が安いけれど、当時の北海道は寒くて高米が作れなかった。高米が作れなかった。高米が作れなかった。高米が作れなかった。



各寄港地の名産品等を安く仕入れ、他の港で高く売っていた。例えば...

運んだもの



よく考えられた航路

- 料理
- 仕事
- 双取りおぼろ

北前船が運んだのは物だけではない。港には仕事がある。客をもてなす文化も生まれた。町を作り、生活を営み、新しい豊かな文化を育み出した。

モノが集まればヒトが集まる

大阪から北海道まで日本海側を通る西廻りルートがあった。これは海流にヒトが乗った。強い黒潮と親潮のふたつが流れて、半島沖で強い流れに流され、しまり心配があった。西廻りルートの対馬海流はゆつくりとした流れなので安全に進むことができたのだ。

新島の町には船がたぎって、荷物のせいで運んできた。早の町には、おぼろが子どもの頭をかきあげて、あだんちで...



